

第 27 回日本城郭検定合格者限定ツアーレポート

日本城郭検定公式ライター TOMO

■ツアー名：日本城郭検定合格者限定ツアー／上級編 中井先生同行！坂本城及び伝説の石積集団“穴太衆”を巡る旅

■日程：2026年3月21日(土)～2026年3月22日(日) 1泊2日

3月21日(土)晴れ

11:30、京都駅八条西口広場に集合し、ツアーがスタート。滋賀観光のバス(写真1)で一路、**観音寺城**へ向かい、途中でタクシーに乗り換える。

※城郭近くの駐車場へは大型車が通れないためである。



写真1

観音寺城は、総石垣造りの六角氏の居城だった城。聖徳太子創建と言われる西国三十三所第32番札所である観音正寺の周りに曲輪を築いている。

登城スタートは13:30。駐車場でタクシーを降りて間もなく、石垣が見えてくる。参加者のテンションが一気に上がるのがわかる。中井先生の解説は、イヤホンガイドで非常にクリアに聞こえる。観音正寺を經由して、本丸・平井丸などの石垣に感嘆(写真2)。観音寺城は日本100名城に登録されている城だけあって、参加者の約半分は登城経験があったが、中井先生の説明で気付かされたことも多かったようである。



写真2

この後、やや険しい道を通り、新幹線からも見ることが出来るという**大石垣**へ。

途中、矢穴の残る石を見学する。ここの城の石垣は、自然石を積んだ野面積みの石垣と言われているが、矢穴があるということは加工されたことがあるということで、必ずしも自然石だけではないことを中井先生から教わる。実際の石を見ながらなので、やはり説得力はある。更に、この時代の矢穴と、戦国後期の矢穴の違いのレクチャーも受ける。



写真3

さて、大石垣。ここは、観音寺城のハイライトとも言える。間近に見る大石垣(写真3)はかなりの感動を参加者に呼んだように見えた。

この後、三角点付近まで登り、山を縦走する。この時に、普通ではまずわからないであろう、この城の北側にある石垣を見学。こういった石垣は、この城を熟知しておられる中井先生と一緒にだから見ることが出来るものである。かなりの山道走破で疲れ切っていた参加者も、この石垣を見て、疲れが吹き飛んだように感じた。

このまま、山道を下り、最初に降りた駐車場へ。これにて、観音寺の登城終了。時間は16:00。この後タクシーから観光バスに乗り換え、宿泊ホテルへ。



写真4



写真5

宿泊は、東横イン琵琶湖線南草津駅西口(写真4&5)。17:15にホテルへ到着。夕食は、ツアーに含まれていないため、各自それぞれとることになった。

3月22日(日)、ホテルのbuffetで朝食をとり、8:30にホテルを出発。昨日と同じ観光バスで宇佐山城へ向かう。日本城郭検定合格者の上級者であっても、日本100名城・続日本100名城に登録されていない山城に行かれる方は少ないと見えて、この城に登城経験があるのは、2名(うち1名は私)だけであった。近江神宮にバスを止め、登城開始。時間は9:00、観音寺城とは異なり、山の中腹まで車で行くことはできないため、麓からの登山となる。宇佐山城のある宇佐山は標高335m、比高230mであるが、急峻な山道が続くため、登りごたえのある行程であった。また写真6は、登城開始30分弱の頃。元気なのは中井先生のみである。

この宇佐山城は織田信長の命を受け、森可成が築いた城である。その後、浅井・朝倉軍に攻められ、森可成は戦死。浅井・朝倉を退けた信長はここに明智光秀を入城させた。

約40分かけて本丸のある頂上に到達。大きな堀切



写真6



写真7

を挟んで本丸と反対側に位置する三の丸からは、琵琶湖を一望でき、立地の特徴を実感できる。



写真8

この山城の見どころは、本丸および二の丸下の石垣と、本丸の枡形虎口である。築城当初、織田信長の時代には石垣は用いられていなかった可能性があり、その後、明智光秀の入城に伴い主要曲輪に石垣が整備されたと考えられている。中井先生からは、こうした改修により、本城が坂本城の背後を守る役割を担った可能性について解説があった。単に城を見るだけではなく、他のもの(この場合は曲輪)との違いから、推論し、検証してみるということの重要性を改めて教わった気がする。

また、枡形虎口では、先生自ら敵将となって、城へ侵入した時の守りに関して、いかに枡形虎口が重要であるかを実演してくださった(写真8)。宇佐山城自体は非常にコンパクトで、登城を終え、10:55には近江神宮の駐車場に戻った。



写真9



写真10

この後、坂本の町へ行き、11:30からランチ。ランチは300年以上の歴史を持つ由緒ある蕎麦店「鶴岳」で手打ちそば天婦羅付を堪能。オーナー自ら、この店の歴史を語ってください(写真9)、参加者は美味しい蕎麦(写真10)に舌鼓。

昼食後は、坂本の町を散策。ここは、延暦寺の僧坊が多く、そこにある石積みを見ながらの、石垣(石積み)散歩。もちろん、中井先生の解説付き(写真11)。実はここで見られる石積みは栗石の分析から18世紀のものであることがわかっており、戦国時代のものではない。が、穴太の石積みの特徴がよくわかるとのこと。たっぷりと1時間強、石積みを堪能した。

最後は、坂本城。明智光秀が築いた城だが、残念ながら



写真11



写真12

ら、遺構は殆ど残っていない。琵琶湖湖中に石垣があり、この冬の渇水で琵琶湖の水位が下がり、湖中石垣が見られるかと期待したが、数日前の雨でまた水位が上がり、頭の部分しか見えず。しかしながら、昨年発掘されたものの埋め戻しされてしまった三の丸の堀跡の場所を中井先生が紹介してくださった。看板も何もないため、一般人では全くわからない場所を見ることが出来た経験は、大きな宝物である。坂本城は、前述の通り遺構が残っていないため、遺構の名残や、関係のある史跡を見学した(写真 12)。

この後、京都駅に戻り、15:20 頃解散。2 日間にわたるツアーは終了した。

参加者の方からいろいろな声を聴くことが出来たので、私の感想も交え、全体の総括をしてみた。

総論

本ツアーは、**日本城郭検定の知識を実地で体感できる貴重な機会**となり、参加者の満足度は総じて高かったと考えられる。特に、中井先生による専門的かつ実践的な解説により、座学では得られない「現地での気づき」や「構造理解の深まり」が得られた点が大きな価値であった。

また、観音寺城・宇佐山城・坂本城という異なる特徴を持つ城を巡ることで、石垣や縄張りの違いを比較しながら学ぶことができ、単体の見学では得られない**横断的な理解**につながったといえる。

さらに、通常の観光では訪れることが難しいポイントや、専門家の案内がなければ見落とされがちな遺構に触れられたことは、**本ツアーならではの体験**であり、参加者にとって大きな付加価値となっていた。

全体として、本ツアーは「城の知識を持つ日本城郭検定受験者向け」に設計された内容として非常に完成度が高く、日本城郭検定の付加価値を高める施策として有効であると評価できる。